

談天

DANTEN



佐藤 淳司

社団法人東北経済連合会 常任理事
環日本海経済交流委員会 副委員長

安定化への期待

薄氷を踏む思い、というのがあります。今年は暑いほどその思いが強くなりました。電力使用率のピークが『98%』、しかも東京電力と北海道電力から融通を受けて、さらに、電気事業法27条の発動による節電、分散使用の結果でこの際どさでした。意外だったのは、原発事故があった東電は融通する余力があり、東北電力の方が逼迫していたことです。関係方面の懸命の努力と協力により、需給逆転による停電が回避されたことは大変結構なことでした。しかし、これからは、早い時期にこのような電力不足の乗り切り方と今後の在り方に検討を加えておくべきではないでしょうか。特に、大口需要者は15%の使用量削減を強制されました。ほとんどの企業は、浪費の見直しではなく、不断の、ギリギリの節電努力の結果に対して、更に削減を求められたのですから、大変な苦勞があったはずで

ここにきて、過去最高の円高が、日本の国際競争力を維持するうえで、大変憂慮されていますが、電力の安定供給に対する不安も大きな問題です。地域の総合経済団体を預かる立場にあるものとして、産業の空洞化につながることを心配しています。

酒田では、35年前から火力発電施設が設置されました。その後、燃料を石炭に変え順調に稼働を続けています。3.11の震災に際しても被災せず、東日本全体が電力不足に陥った中、大きな存在感を発揮してきました。また、このたびの震災で、この国の構造欠陥がどこにあったか明らかになったといわれていますが、そのひとつに生産・物流拠点の偏在が指摘されています。そして電力についても、消費地で発電する、いわゆる地消地産（消費する地域でその分を賄う）の必要性が指摘されています。当酒田商工会議所は酒田市と共に、発電設備の増設の受け入れも含め、電気の安定供給のために必要な役割を果たしていくことを決めました。

評論家の立花隆氏が月刊誌のコラム欄に書いた記事の一部を紹介します。

日本は石炭火力発電の技術（超臨界技術、超々臨界圧、石炭ガス化複合発電など）を驚くほど向上させ、熱効率41.6%で圧倒的に世界一（インド、中国は32%程度。アメリカ36%）になっただけでなく、CO₂排出量など大気汚染面で、世界で一番クリーンなレベルに達している。どれくらいクリーンかという点、もし米中印三国が日本のクリーン石炭発電技術を取り入れたら、それだけで、世界の総CO₂排出量が13億トン（日本の総CO₂排出量に匹敵）も減るほどだ。（中略）自然エネルギーの素材生利用はすべて効率が悪すぎる。…日本の生きる道は、多数の電源を併用するベスト・ミックス方式しかないが、どの電源を選ぶにしろ、頭をもっともっと使って技術を発展させ、効率を最高度に高めていくことしかないと思う。

ということです。再生可能エネルギー買い取り法が成立したので、今後の動向を見極めるとともに、安定した電力供給体制が一日も早く構築できないかと願っています。

（酒田商工会議所 会頭・さとう じゅんじ）